

近世大念佛寺の 来迎会

大東
良清



法要の流れは「入御」、「阿弥陀経万部法要」、「還御」となっている。「入御」とは、来迎橋を渡つて本堂へ練り込むことで、本堂北側の後門より掛けられた来迎橋（長さは東西に約五十メートル南北に約三十メートルで全長約八十メートル、橋の高さは平均約三、五メートル）を練り歩き、本堂に入堂し、外陣、内陣を通過し後門に至るという経路で執行されます。次に「本堂内法要」では菩薩が手渡しにて本尊に供物する伝供が行われ、「聲明」、「供養樂」、「阿弥陀経万部法要」が執行されます。最後の「還御」では「入御」と逆の経路で来迎橋を練り還ります。

なお、奈良市德融寺所蔵の『大令寺記録』によると、佛寺記録によると、
宝暦十三年の来迎供養とあり、来迎会は、住職一世一度の大法事と記されているように、人間財源とともにとても大規模な法要であつたと推察できます。

「對面所」とは、「融通總本山大念佛寺誌」によると、方丈にあつた大念佛寺住持と対面する部屋の事を指します。ちなみに「八まん處」は、大念佛寺の鎮守としてまつられています。八幡社であると考えられます。

絵図内には書き込みがなされており、行事の細かな様子を知ることが出来ます。

「本堂」と「對面所」の間に記された書き込みには、橋を練り歩くコースとスケジュールが述べられており

口多	(阿弥陀)	（光明王）	→ 15 （金剛）	う
三	ま以	(三昧)	→ 18 （衆宝王）	（光明王）
童子形	→ 19 （月光王）	→ 17 （日世う王）	こんこうそう	（光明王）
大いとく	(大威徳)	→ 22 （地藏）	→ 16 （華嚴）	藏
さい王	(定自在王)	→ 24 （大慈さい	→ 20 （日照王）	（光明王）
王	(大自在王)	→ 25 （地藏）	→ 15 （金剛）	う
女二口	→ 男二口	→ 塞龕	→ 16 （華嚴）	（光明王）
(現在のお練り順とは異なります)	(現在のお練り順とは異なります)	(現在のお練り順とは異なります)	(現在のお練り順とは異なります)	(現在のお練り順とは異なります)
またこの図には、本堂正面に「阿	ア	ア	ア	ア
如来像をみることができます。大念	ア	ア	ア	ア

「二十五菩薩來迎会」とは、臨終の際阿弥陀如来が菩薩たちと迎えに来る衆衆來迎のありさまを描いた迎接曼荼羅、來迎図などが起源となり、そのすがたになぞらえて人が菩薩役となり、実演にて極楽往生の様相をあらわす儀式のことを指します。迎接会や迎講、練供養とも称され、大念佛寺においても、法要の各日に行われる「二十五菩薩來迎会」は、「お練り供養」や「万部おねり」と呼び特によく知られています。

法要の流れは「入御」、「阿弥陀經万部法要」、「還御」となっている

の『聖衆来迎供養会式』を見て、願
わくば生前に臨終の行儀を習って聖
衆來迎の勝相を目のあたりにしよう
と二十五菩薩聖衆來迎の行裝を整備して
一三四九年（貞和五）春、自らが行
者となつて執行したことが始まりと
されています。

順興寺 実従の記した『私心記』
（『右山本願寺日記』下）の一五四
二年（天文十二）九月二六日条には
平野ニネリ供養トテ、大念佛上人
シ候。

と平野で行われた來迎会の記事が見え
その後、一六九六年（元禄九）に近
士の独創母興の且そしらへて佛手

この宝暦十三年に執行された来迎会の様子は、表紙で示す大阪歴史博物館に所蔵されている絵図によつて明らかにすることが出来ます。

題字を見ると、

摂州平野 本山融通大念佛寺 未之
三月二日より 廿五しやうらい次第
と題されています。

来迎橋とそこを渡る二十五菩薩を強調した構図になつております、「本堂」「八まん處」、「経藏」、「對面所」の諸堂と「回向仏」ととかれた堂舎があります。来迎橋は本堂に向かつて左側の堂舎「對面所」に向かつて橋が伸びています。

世音がお練りの先頭であると考えると練り歩く順番は、以下の通りとなります。
1 く王んせ於ん(観世音)→童子形
↓ 2 せいし(勢至)→3 やく上(華)
上)→4 やく王宇(藥王)→5 ふげん(普賢)→6 だ良尓(陀羅尼)→7 本
うじさいをう(法自在王)→童子形
↓ 8 びやくぞう王(白象王)→9 こ
くうぞう(虚空藏)→宮殿→10 とく
ぞう(徳藏)→11 本うぞう(宝藏)→
童子形→12 こんぞう(金藏)→13 さ
童可い恵(山海慧)→14 かうめう王

(宝暦十二)に紫衣が勅許され、大念佛寺住持を繼承しています。妙法院兼帶、毘沙門堂、書院等數宇を建立し、一七九九年(寛政十一)三月二六日に遷化するまでの間、二三年間在職していました。

堯海は阿弥陀経一万部を読誦する阿弥陀経万部会と来迎会を合同で執り行うことを行なった僧ですが、その以前の一七六三年(宝暦十三)三月二日から三月一六日まで、来迎会を執行している。堯海にとっては、住持を継承して二年しか経ていないにもかかわらず執行した最初の大事業といえるかもしません。

勧められ、その後本堂から北向きに練り出し、「八まん處」の前を通り午後二時回向仏の堂舎に入ると記されています。

本堂右側の橋の下に記された書き込みでは、当時使用されていた来迎橋の高さと長さを知る事ができます

橋の高さ八尺、さん介い此下を通る者しの長さ百八十けん

橋の高さは約二、四メートルあり、参詣者はこの橋の下を通ることができたとあり、橋の長さは約三百二十メートルあつたと記しています。來迎橋の上では二十五菩薩のお練りが執行されています。この絵図に

ひる九ツとき本堂尔て大法事有りて
八まん處のまへを袴り、ハツ時恵可
う堂尔入累、

佛寺には来迎会で使用された
られる、人が中に入るところが
阿弥陀如来像が残されており
に描かれた阿弥陀如来像（上記
と同一のものと推察されます

場所は、練り始める場所とは違う堂舎であつた可能性が高く、元禄九年の来迎会においても『添上郡櫻本村永代帳』の記述には「しやば堂」との記載も見えます。



紫金職任命

濱田金真師

などを歴任されました。

最後に宝暦十三年と明和六年の來迎会に見られる「龕」の存在です。明和六年の『日鑑』によると「龕」には「靈名帳」が入れられていると述べられています。さらにこの「龕」は本堂内法要後の還る時のみ橋を渡つています。これは極楽の世界から來迎した菩薩衆が、法要によつて追善供養を受けた先祖の諸靈を極楽世界へ引接する様をあらわしているのではないか。』

一時期体調を崩されたこともありましたが、今年七十七歳になられてもお話を隅々には、融通念佛の歴史をたどる濱田師の熱意を伺うことができます。

二月一日、令和二年度の紫金職任
命式があり、第二教区の濱田全真師
(東大阪市御厨) 念佛寺住職が就

わたり融通念佛を通じていろんな人々とのつながりができました。父母をはじめそういった方々に感謝し、そ

10

苦労しました。そのため私を五歳で得度させました。そのお陰で長きに

赤膚焼の里・茶筌の里を訪ねて

あかはだやき
生駒市高山町は古くから茶
筌の里として知られています。
万部期間中に出店して下さっ
ている久保透商店を訪ね、代
表の二十五代目久保良齋氏に
伺いました。

茶道を確立した千利休より
さらに七、八十年前の室町時代、
奈良称名寺の僧侶村田珠光が
昭山氏に、赤膚焼を販売いた
だいています。

赤膚焼についてお話を伺
いすべく、編集委員二名で、
バスに揺られて数十分、悠久
の歴史を思われる、古の平城
京の南西部、赤膚山に向かい
ます。赤膚焼の窯元でおられる、
大塙昭山氏にお聞きしました。

早速ですが、赤膚焼には、ど
んな歴史があるのでしょうか。

もともと、この地には良い
土と、赤松の良い燃料があり、
焼き物は古くからおこなわれ
ていました。古くは埴輪など、
また生活用具を焼いていました。

焼き物の技術は当時から高か
かりました。



茶筌の里

抹茶を考案し、それを攪拌する
道具として鷹山城主の次男宗砌
が竹を工夫して茶筌を考案した
と伝えられています。そしての
ちに「鷹」を「高」に改めて「高
山茶筌」と呼ばれるようになり
ました。

茶筌の制作には高い
技術が必要で、長い間
同じ「鷹」を「高」に改めて「高
山茶筌」と呼ばれるようになり
ました。



煮出し、それを一月から三月に
かけて外の寒さのなかで晒します。
茶筌の長さに寸法切りした竹を、
持ち手の所まで十六等分に割り、
それを穂になる外側部分だけ
を薄く切り残します。その十六
等分した一片をさらに大小交互
の穂に、小は内側の芯になります。
一六〇本同じように見えても部
分的に堅さが違います。それを
薄く削りながら、堅さ、形を整
えて茶筌ができるあります。非
常に繊細な技術です。

世界平和祈願護摩供養

平野五流講
五月五日(火) 十時三十分より 本堂北側

護摩とは供物（護摩木・五穀など）を炎に
投じて神仏を供養する修法のことです。火
の龍王が煙とともに供物を仏さまに届けて
願い事をかなえるといいます。護摩の淨火
を受けることは厄難や星回りの災いを避け、
願い事の成就だけでなく、煩惱を焼き尽く
し自己を浄化させるのです。是非、お参り
下さい。



融通声明コンサート

融通声明研究会 五月三日(日) 十時より



今年度の万部声明コンサートはリュート奏者の
高木一郎さんと奥様でソプラノ歌手の樋口美紀さ
んのデュオコンサートです。

リュートは中世ヨーロッパの楽器で、かつての
宫廷において“楽器の女王”と謳われ愛しいメロ
ディの数々を奏でてきました。

雅のハーモニー

樂融会 五月四日(月) 十時より



樂融会は本宗の僧侶で構成された雅樂團
体です。菩薩おねりの莊嚴さを演出するた
めに奏楽していますが、万部の期間中、獨
自の演奏会を行っています。

西洋の音楽とは違った、雅な和の調べを
体で感じただければ幸いです。

今回は色鮮やかな装束を身に纏つて優美
に舞う舞樂を三曲披露いたします。

樂融会

樂融会は本宗の僧侶で構成された雅樂團
体です。菩薩おねりの莊嚴さを演出するた
めに奏楽していますが、万部の期間中、獨
自の演奏会を行っています。

西洋の音楽とは違った、雅な和の調べを
体で感じただければ幸いです。

今回は色鮮やかな装束を身に纏つて優美
に舞う舞樂を三曲披露いたします。

物産展など

融通声明コンサート

雅のハーモニー

樂融会

- 亀乃饅頭（瑞祥閣前大テント）
- 梅月堂（大念佛寺御用達和菓子）
- 上田酒造販売株式会社（生駒宝山・嬉長）
- 山田念珠堂（お念珠・お線香等）
- 魚竹かまぼこ店（大阪もん創作なり天）
- 赤膚焼（窯元 大塙昭山）
- ついついひらの協賛店

- 瑞祥閣北の間
- 仏教災害支援ネットワーク
- J.Aならけん矢田支店女性部
- 高山茶筌（久保透商店）

